



ママさん飛行士、山崎直子さんと宇宙に飛んだ「銅製靴下」



Crew of Space Shuttle Mission STS-131

れており、条件には宇宙では洗濯できないため、長期間着られるよう抗菌性や防臭性などが挙げられています。私どもが開発した「カプロンファイバーツクス」は、まさにうってつけ。ポリエステルに髪の毛の三分の一、三〇μmという極細の銅線を編み込んでいるのが特徴で、銅イオンが細菌

今年四月のテレビ、新聞などのマスコミを独占したのは一人の日本人女性だった。山崎直子さん、そうあの日本人初のママさん宇宙飛行士だ。大和なでしこ然とした優雅さとそれとはまったく逆の宇宙に挑む凛とした姿がまぶしかった。テレビの映像で気付かれた方もあるかもしれないが、宇宙船の中で浮遊する山崎さんが履いていたのが実は銅繊維を編み込んだ日本製靴下だったのだ。

宇宙船内では、主に活動性をあげるために靴を履かない。靴下が靴がわりというわけだ。

この靴下を製造したのは栃木県足利市にある従業員十一人の繊維メーカー(株)セイホウである。同社社長青木朋治氏は、靴下を製造したいきさつについて語られる。

——二〇〇九年九月、長女から宇宙航空研究開発機構(JAXA)が宇宙飛行士の「普段着」を公募しているという新聞記事を見せられました。その中に靴下も含ま

の繁殖を抑え、ニオイの元になる細菌も減らす。銅繊維は熱を逃さない性質があるため、従来品に比べてあたたかい。さらに今回の用途に適していたのは足裏部分に消臭効果のある粉末を固めて水玉のように付けているのです。——

JAXAの選定基準をクリア

JAXAは着心地やデザイン、飛行士の意見のほか、安全性実証試験を経て昨年十二月に採用を決定。同社は靴下部門で三社のうちの社に選ばれたのである。

同社常務取締役青木孝文氏とチーフマネージャー東條栄子氏は口を揃えて言われる。

——宇宙滞在時の快適な生活のため、船内被服には機能性や安全性が求められます。カプロンファイバーの持つ抗菌性や消臭性、静電気を抑える機能性に加え、快適性が選定理由だったのではないかと。私どもでは、ただ単に性能がよいとPRするのではなく、市の試験研究機関などにご協力いただき、その性能のバックデータをとり、それをいつでも公表できる体制を敷いています。そんな姿勢が評価されたのかもしれない。——

四月五日のスペースシャトル打ち上げの際には青木社長はNASAから招待され、ケネディ宇宙センターでの打ち上げをくまなく見届けた。

——繊維の町から宇宙へ向かった靴下が生まれたいへんうれしく思っています。機会があったら山崎さんに宇宙でのカプロンファイバーの履き心地はどうだったのか、聞いてみたいですね。——

四月五日のスペースシャトル打ち上げの際には青木社長はNASAから招待され、ケネディ宇宙センターでの打ち上げをくまなく見届けた。



宇宙へ飛び立った「カプロンファイバー」



ポリエステル繊維に編み込まれた極細銅線



極細銅線とポリエステル糸



東條栄子チーフマネージャー



青木孝文常務



青木朋治社長